

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学  
所 属 薬学部  
名 前 寺島 朝子  
作成日 2023年8月28日

## 1. 教育の責任

私は、臨床系教員として、2年から6年次に開講する以下の科目を担当する。2023年8月までに、医療薬学チュートリアル演習Ⅰ、薬学総合プレ研究を開講するとともに、保健医療学部との合同科目であるチーム医療論に携わってきた。また、現在は秋学期から開講する調剤学、実務実習事前学習Ⅰの準備を行っている。

〔担当科目〕

医療薬学チュートリアル演習Ⅰ(2年前期、必修、1単位)

薬学総合プレ研究(3年通年、必修、2単位)

調剤学(3年後期、必修、1単位)

実務実習事前学習Ⅰ(3年後期、必修、1単位)

処方解析演習(4年前期、必修、1単位)

実務実習事前学習Ⅱ(4年前期、必修、2単位)

実務実習事前学習Ⅲ(4年後期、必修、2単位)

病院実務実習(5年通年、必修、10単位)

卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用)(4年後期～5年通年、必修、12単位)

卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展)(6年前期、必修、4単位)

チーム医療論(6年後期、必修、0.9単位)

総合演習Ⅱ(6年後期、必修、20単位)

教育活動としては、2022年度入学生11名および2021年度入学生1名のチューターを担当している。また、委員会やワーキンググループとしては、事前実習実行委員会、OSCE準備、学修支援(PDC)を担当している。事前実習実行委員としては、3年後期から始まる実務実習事前学習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの構築に向けた取りまとめを行っている。OSCE準備では、4年次後期のOSCEに向けた環境整備ならびに資料等の準備を進めている。PDC活動においては学修支援に関する部分を担当し、他の基礎系教員と協力して学生の学修支援活動を行っている。

## 2. 私の理念・目的

### 1) 私の理念

薬剤師の社会的任務は、薬剤師法の第1条に「薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする。」と明記されている通り、薬を通して国民の健康な生活を確保することであり、大学では、この任務を果たすために必要な知識・技能・態度を学修させる。薬学で教える知識はサイエンス、技能・態度はアートであり、薬剤師が上記の任務を果たすためには、学生自身がサイエンスとアートを関連させて考える力が必要だと考えている。つまり、国民の健康な生活を確保することを

商いのための手仕事ではなく、使命感と責任感を持って国民の幸せのために取り組むべきことであるので、そのために、学生には在学中に自らの努力を惜しまずに考え抜く姿勢を養ってもらふ必要があると考えている。昨今の義務教育を経てきた学生達は、とかく知識の丸暗記をしがちであるが、大切なことは「なぜ」そうなのか、様々な知識に経験を交えて考えること、自らの行動に責任を持つことに重きを置いて日頃の指導を行っている。6年間は長いようで短い。学生には、入学した時点から「医療に携わる者」であることを自覚するよう接していきたいと考えている。

## 2) 理念をもつに至った背景

私自身、大学病院の薬剤師(技官)およびマネージャー、地域の病院薬剤師、保険調剤薬局の薬剤師として患者や生活者と携わってきた。また、この間に3つの大学(薬学部2施設、医学部1施設)で学生を教えてきた。日本の薬学教育では、臨床現場と教育現場は一見離れているようであるが、いずれの場所で仕事をしていても、その仕事が直接的に目の前の患者に繋がる仕事でなかったとしても、薬剤師としての仕事の姿勢は変わらないと実感している。つまり、私の仕事の先には人の生活や命があり、そこに対して責任を果たすことが必要なのだと考えている。ただ、この考えは、私自身が大学3年生まで実感できずにいたことを記憶している。当時、卒業まであと1年という段階で「臨床に立つ」ということを強く意識する機会があり、もっと臨床を見据え、責任ある学びを重ねるべきであったと強く後悔した。それが、現在教職に就くことを選んだ背景にあるので、臨床を経験した薬剤師として、できるだけ多くの学生に学修の意味を伝えていきたいと考えている。

## 3. 教育の方法・戦略

講義や演習では、できるだけアクティブラーニングを取り入れて、学生自身に思考させる仕組みを作っている。現在までに行っている医療薬学チュートリアル演習Ⅰでは、常に、①学生に思考させる時間、②自らの思考を文字で表現する時間、③自らの思考を言葉で他者に伝える(アウトプットする)時間、④自らの思考に対して他者からの意見をもらう時間、⑤他者の思考に対して自らの考えを述べる時間、そして、⑥他者の意見を踏まえて自らの考えを再構築する時間の①～⑥を循環させるように授業を構築している。学生からすると②→③→④→⑤→⑥の流れは、頭と感情を使う非常に苦しいことだと考えるが、ここが大事なので、時間の許す限り「なぜ」「どうして」「他には？」などという声かけをしながら、自らの思考に向き合う癖付けをしている。3年生の調剤学、その先にある実務実習事前学習においても、可能な限り、学生自身が思考をしながら学ぶような仕組みを考えていきたいと考えている。

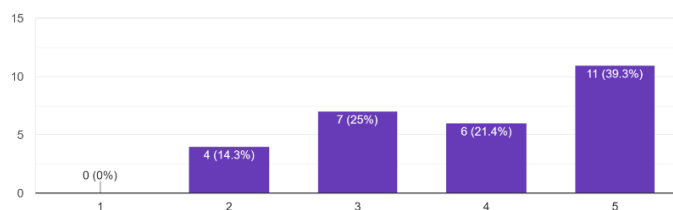
これらのアクティブラーニングを効果的に行うスキルは、有識者の講演を聴いたり、学外のワークショップに参加したり、あるいは自身が学習者になって他大学の教員とディスカッ

ションする機会を持つようにしながら勉強している。時代の流れを踏まえながら、学生達にとって身近な問題から次第に臨床的な問題まで思考できるように、学生に与えるテーマには工夫を凝らしている。ただ、目線教育には、学内の様々な教員とも足並みをそろえる必要がある。本学には、様々な大学から多様な教員が集まっているので、大学におけるFDなどの機会において、年齢、立場を問わず沢山の教員とも意見交換をしながら、今後の授業における工夫を図っていきたいと考えている。

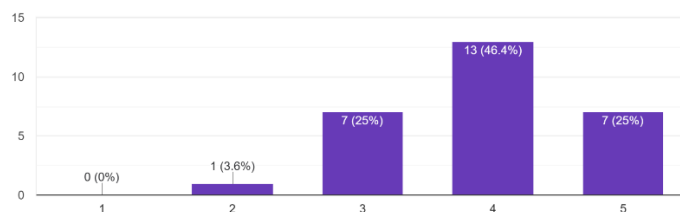
#### 4. 学習成果

2023年度の2年次学生からの医療薬学チュートリアル演習Ⅰに対する授業評価は以下の通りである。また、評定点は73.37であり、概ね狙い通りに進められていると考えている。また、自由記載のコメントで、「現在の課題を自分で考えてから、グループのメンバーと共有できたことが、いろいろな意見を聞いたり、自分の考えを持つことができたため良かったです。時間が短かったため大変なこともありましたが、今回の反省点を活かして、次は時間内にもっと良いものを作れたら良いと思います。」といったように、思考することの大切さに気付く学生もいるので、次年度以降は学生の学修意欲を引き出すことに工夫をしながらさらに良い授業を提供していきたいと考えている。

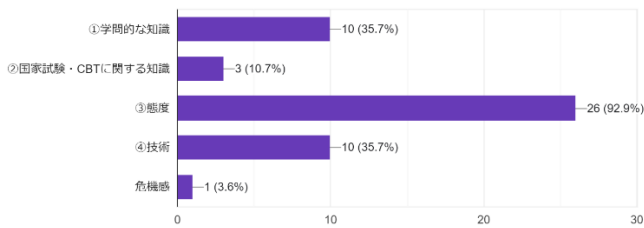
この科目に関する学修意欲はどうでしたか  
28件の回答



この授業の内容は身に付きましたか (到達目標を達成できましたか)  
28件の回答



到達目標を含め、身に付いたと思うものはどれですか（複数選択可）  
28件の回答



なお、他の科目はこれから授業を開講するため、学習成果については、今後の評価を待つ。

#### 5. 改善のための努力

上記のようなアクティブラーニングを効果的に行うためには、ファシリテーターを担当する教員間の意識統一が不可欠であると考えている。今年度担当した若手教員から「次年度は、年長の教員も含めて教員たちの目線を統一することが必要」という指摘をもらっているため、事前の情報共有を密にして次年度の改善を図りたい。また、対象となる学生達にとってイメージしやすいインストラクションとテーマが不可欠であると考えているので、それについても改善を図る予定である。

#### 6. 今後の目標

短期目標として、次年度の開講に向けて今年度中に講義資料、運用方法のブラッシュアップを図ることを考えている。また、長期目標としては、調剤学、実務実習事前学習など高学年の授業に繋がるように、引き続き、学生の思考を引き出すための授業づくりを行ってゆく。また、実務実習事前学習Ⅰ～Ⅲの後には、薬学共用試験 OSCE の受験があるため、学生自身が知識だけでなく技能・態度を身に付けられるような実習を構築する。

#### 【添付資料】

- ・ 授業評価(学生アンケート)(添付資料①)
- ・ 日本薬学教育学会2022年度発表資料(添付資料②)
- ・ 日本薬学教育学会2023年度発表資料(添付資料③)